

令和7年度 湘南支援学校 不祥事ゼロプログラム

*本校は、事故・不祥事の発生をゼロにするため、次のとおり不祥事ゼロプログラムを定める

1 実施責任者

湘南支援学校不祥事ゼロプログラムは、全職員で取り組む。実施責任者は校長とし、副校長、教頭および事務長がこれを補佐する。総括教諭は、校長および副校長、教頭を補佐し、教職員の中核となりプログラムの推進を図り、不祥事防止に努める。

2 目標および行動計画

	課題項目	目標	行動計画
1	法令遵守意識の向上 (法令の遵守、服務規律の徹底)	公務員としての立場を自覚し、教職員として法令遵守意識を確固とし、公務外非行の防止に努める。	①教育公務員としてより高い倫理観を持った行動について自覚し、不祥事防止を徹底する。 ②服務規律について、周知理解を図る。 ③報告・連絡・相談を日常的に行い、チームでの取り組みを意識する。また、ヒヤリハットについての報告は全職員で共有を図る。
2	職場のハラスメント (パワハラ・セクハラ・マタハラ等)の防止	職員同士がお互いの人権を尊重した言動、行動をし、誰もが働きやすい職場環境を作る。	①啓発資料等を活用し、ハラスメントの理解を深める。 ②職員間の連帯感を高め、風通しの良い職場づくりをすすめるとともに、わいせつ、セクハラ行為を許さないという環境整備に努める。
3	児童生徒等に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりが、児童生徒の人権を尊重した指導を行い、事故不祥事の未然防止に当事者意識をもって取り組む。	①児童生徒指導においては、密室状態とならない体制づくりをし、複数の教員で対応する。 ②同僚性を發揮し、互いに注意し合える職場環境を目指す。 ③管理職は、授業等の様子を日常的に巡視し、発生の未然防止を行う。 ④SNSで児童生徒とのやりとりは行わない。
4	体罰、不適切な指導の防止	児童生徒の人権を尊重した丁寧な指導を行う。	①職員間の学び合いを活性化し、特別支援教育における専門性を高め、適切で丁寧な指導実践につなげる。 ②場所を問わず児童生徒の名前の敬称づけ、年齢相応の言葉かけ、身体的な距離感を意識した指導を実践する。 ③人権研修会を実施し、人権に関する考えを深める機会を得る。

	課題項目	目標	行動計画
5	入学者選抜、進路関係書類の作成および取扱いに係る事故防止	入学者選抜、進路関係資料、個別教育計画等の作成、管理を適切に行う。	①作成中の文書の置き忘れや受け渡し等の留意事項を徹底する。 ②作成後の誤配付防止の点検や管理の留意事項を徹底する。 ③関係書類の取扱い時期の注意喚起、防止対策を具体的に示す。
6	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報を適切に管理し、情報の紛失、流出を防止する。	①個人情報を含む文書の取扱いに注意し、紛失等の未然防止の注意喚起を適時行うとともに適切な管理方法の徹底を行う。 ②保護者への配付物、回収した個人情報についての適切な管理について徹底する。 ③保護者や児童生徒の個人情報を取得する際は必ず手続きを行い、適切に管理する。(電話番号、メールアドレス等)
7	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の遵守と交通事故を防止する。	①啓発資料等を活用し、交通法規遵守の意識を高める。 ②事例の即時的な周知等により、注意喚起を継続的に行う。 ③事故発生後の適切な対応を確認する。
8	会計事務、財務事務等の適正執行	私費会計基準等に則した計画的で適正な執行に努める。	①会計担当者会の開催による、執行に係る手順を確認する。 ②私費会計マニュアルの理解と対応の徹底を図る。 ③年間を通して、計画的且つ適切な予算執行を行う。

(1) 管理職による不祥事根絶メッセージの発信(朝の打合せ、他)

全体への発信とともに一人ひとりの職員の良い行動に着目し、フィードバックを密に行うなどコミュニケーションを深め、不祥事の未然防止となるように努める。

(2) 不祥事防止ミニ研修実施(各月職員会議の前)

各回の講師を総括教諭等で分担し、研鑽・討議を通して成果を全職員で共有する。

(3) 風通しの良い職場づくりの実施

教職員全体で子どもの人権はもちろん、お互いの人権を尊重する意識を今以上に高め、教職員間のOJTを推進し、互いを認め合う風通しの良い職場づくりを実施する。学校全体の働き方改革を進め、物理的精神的なゆとりを創出することで事故・不祥事の防止につなげる。

3 検証 計画の検証は、不祥事防止会議で行う。また、各目標達成に向け、行動計画の追加や修正をする場合は、企画会議で確認する。不祥事防止会議で、検証により実施結果をまとめ、次年度の策定に反映する。

4 報告 作成した不祥事防止プログラムおよび実施結果を学校ホームページに掲載する。